

週刊新潮

6月3日号
340円



良い「老人ホーム」を選ぶコツ

被介護者の要介護度が上ると、通所介護や訪問介護では対応が難しくなり、介



入居者についても事前を知る

護施設への入居を選択せざるを得なくなる。

その入所介護施設は、大きく、介護保険が使えるものと使えないものに分けられる。前者には特別養護老人ホーム、グループホームなど、後者には民間の有料老人ホームなどがある。これらの中で最も人気が高いのが、費用が安い割に施設が充実している特別養護老人ホームだ。だが、入居したくとも順番待ちのところが多い。また、入所基準もあつて重度の人から優

先的に入る仕組みとなっている。

グループホームは、認知症のお年寄りが共同生活を行なう小規模な施設で、こちらにも人気があり、待機者が多い。

となると、比較的に利用しやすいのは、有料老人ホームということになるのか。

「私も仕事柄、介護旅行で外出支援する高齢者から依頼され、有料老人ホームの見学や入所をお手伝いすることがよくあります。入居金は、一千万、二千万円とる割に、実際にそれだけ

ですから高齢者が一人で行くと、その場の勢いに負けて契約書に判を押してしまつたりする。出来れば弁護士か市民後見人のような第三者、あるいは我々のような介護の専門スタッフを同行させる方がいい。家族とというのは意外に役に立ちません」

次に経営母体を見る。

「気をつけるべきは、不動産ファンド系の業者。マンションと同様、値上りを見越して開発し、その後、転売して、当初の条件よりサービスマンが悪くなるケースが多い。要注意です」

うこと
ハ
ービ
こと
「各
ール
れり
必ず
出来
楽し
やサ
施
「い
ても
過ぎ
に合
に様
ある
そ
「老